

Active Directoryの変更をUmbrellaと同期する時間を決定する

内容

[はじめに](#)

[同期の種類とタイミング](#)

[同期の強制実行](#)

[以前のコネクタ同期動作](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Active Directory(AD)の変更をクラウドに同期し、APIを介して更新し、Umbrellaダッシュボードに表示するためのタイムフレームについて説明します。

同期の種類とタイミング

Active Directory(AD)の変更は、主に次の2つのタイプでクラウドに同期されます。

- 完全同期：コネクタはAD環境の完全同期を実行します。このプロセスには数分かかります。
- Delta sync:コネクタは、最後の同期以降に行われた変更のみを同期します。このプロセスにも数分かかります。

同期の強制実行

- デルタ同期をトリガーするには、コネクタサービスを再起動します。
- 完全同期をトリガーするには、LDIFフォルダを削除してから、コネクタサービスを再起動します。
- 環境に複数のコネクタが存在する場合は、すべてのコネクタサービスを再起動します。

以前のコネクタ同期動作

古いコネクタパフォーマンスには、次のシーケンスが含まれます。

1. ローカルAD環境は変更を複製し、コネクタはこれらの変更を収集して、クラウドに送信します。このステップには通常5 ~ 15分かかります。Active Directoryサーバ(ドメインコントローラ)が1台しかない環境では、ネットワークの遅延、処理、および組織の規模に応じて、変更が処理されてクラウドに送信されるまでに通常は最大で5分かかります。

2. クラウドはADツリーを処理し、ダッシュボードとポリシーにインポートします。小規模なADツリーの場合、10分未満で完了します。大規模なADツリーの場合、このプロセスには2時間以上かかります。数万人のユーザーがいる非常に大きな木の場合、処理が数時間にわたって続くため、結果は約2時間後に徐々に表示され始めます。

複数のADサーバが存在する場合、同期時間が長くなる可能性があります。ADサーバは相互に変更を複製する必要があります。これは通常、デフォルトでは15分ごとに発生します。上記の値に加えて、この追加時間を計画します。

関連情報

Active Directoryレプリケーションの詳細については、『[Active Directoryレプリケーショントポロジの仕組み](#)』を参照してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。